

令和6年度
武蔵野大学

一般選抜 B 日程 2月15日
2 時限
国語総合
（ 60 分 ）

【注意事項】

1. 問題は25ページまでです。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、黙って手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答用紙（A）には志望学科1の受験番号を記入し、受験番号の下のマーク欄にマークしてください。氏名、フリガナも記入してください。解答する時限と科目（国語総合）にマークしてください。正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙（A）の解答記入欄にマークしてください。例えば、

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答記入欄の③にマークしてください。

（例）

解答 番号	解 答 記 入 欄									
	10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用しても構いませんが、ページを切り離してはいけません。
7. 時間内に解答し終わっても、退出することはできません。
8. 途中で質問等があるときは、黙って手を挙げて監督者を呼んでください。

〔共通問題〕

〔一〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

中学時代に始めての京都見物に行った事がある。^(注1)黒谷とか金閣寺^{きんかくじ}とかいう所へ行くと、案内の小僧さんが建築の各部分の什物^{じゅうもつ}の品々の来歴などを一々説明してくれる。その一種特別な節をつけた口調も田舎者^{いなかもの}の私には珍しかったが、それよりも、その説明がいかに機械的で、言っている事がらに対する情緒の反応が全くなくて、説明者が単にきまっただけの声を出す器械^(a)かなんぞのように思われるのがよほど珍しく不思議に感ぜられた。その時に見た宝物や襖^{ふすま}の絵などはもうタイガイきれいに忘れてしまっているが、その時の案内者の一種の口調と空虚な表情とだけは今でも頭の底にありありと残っている。

その時に一つ困った事は、私が出たとえある器物が絵かに特別の興味を感じて、それをもう少し詳しく i 見たいと思っても、案内者はすべての品物に平等な時間を割り当てて進行して行くのだから、 ii しているとその間にずんずんさきへ行ってしまうと、その間に私はたくさん見るべき物を見のがしてしまわなければならない事になる。それはかまわないつもりでもそこを見て後に、同行者の間でちょうど自分の見落としたいものについての話題が持ち上がった時に、⁽¹⁾ ii なんだか少し惜しい事をしたという気の起くるのは免れ難かった。

学校教育やいわゆる参考書^(イ)によって授けられる知識は、いろいろの点で旅行案内記や、名所の案内者から得る知識に似たところがある。

もし学校のようなありがたいシセツ^(イ)がなくて、そしてただ全くの独学で現代文化の蔵している広大な知識^(b)の林に分け入り何物かを求めようとするのであったら、その困難はどんなものであろうか。始めから終わりまで道に迷い通しに迷って、無用な労力を浪費するばかりで、結局目的地の見当もつかずに日が暮れてしまうのがおちであると思われる。

しかし学校教育の必要といったような事を今さら新しくここで考え論じてみようというのではない。ただ学校教育を受けるという事が、 iii 案内者に手を引かれて歩くときよく似ているという事をもう少し立ち入って考えてみたいだけである。

案内記が詳密で正確であればあるほど、これに対する信頼の念が厚ければ厚いほど、われわれは安心して ウ キロに迷う事なしに最小限の時間と労力を費やして安全に目的地に到着することができる。これに増すありがたい事はない。しかしそれと同時に ウ その案内記に誌^ししてない横道に隠れた貴重なものを見のがしてしまう機会^(a)はなほ多いに相違ない。そういう損失をなるべく少なくするには、やはりいろいろの人の選んだいろいろの案内記をひろく参照するといふ。ただ困るのは、すでに在^ある案内記の内容をそのままにいかげんに継ぎ合わせてこしらえたような案内記の多い事である。これに反して、むしろ間違いだらけの案内記でも、それが多少でも著者の体験を材料にしたものである場合には、存外何かの参考になる事が多い。

しかしいくら完全でも結局案内記である。いくら読んでも暗唱しても、それだけでは旅行した代わりにはならない事はもちろんである。

案内記が系統的に完備しているという事と、それが読む人の感興をひくという事とは全然別な事で、むしろ往々相容れないような傾向がある。いわゆる案内記のムミカンソウなのに反してすぐれた文学者の自由な紀行文やあるいは鋭い科学者のまとまらない観察記は、それがいかに狭い範囲の題材に限られていても、その中に躍動している生きた体験から流露するあるものは、直接に読者の胸にしみ込む、そしてたとえそれが間違っている場合でさえも、書いた人の真を求める魂だけは力強く読者に訴え、読者自身の胸裏にある同じようなものに火をつける。そうして誌された内容とは無関係にそこに取り扱われている土地その物に対する興味と愛着を呼び起こす。

(2) 専門の学術の参考書でもよく似た事がある。何かある題目に関して広く文献を調べようという場合にはいろいろなエンクロペディやハンドブックという種類のものはなくてはならない重宝なものであるが、少し立ち入ってほんとうの事が知りたくなればもうそんなものは役に立たない。つまりは個々のオリジナルの論文や著書を見なければならぬ。それでこのような参照の大部なものを、骨折って始めから終わりまで漫然と読み通し暗唱したところで、すでになんらかの「題目」を持つていない学生にとってはきわめて効果の薄い骨折り損になりやすいものである。

またこんなものから題目を選び出すという事も、できそうでできないものである。これに反して個々の研究者の直接の体験を記述した論文や著書には、たとえその題材が何であつても、その中に何かしら生きて動いているものがあつて、そこから受ける暗示は読む人の自発的な活動(オ)をユウハツするある不思議な魔力をもっている。そうして読者自身の研究心を強く喚び(よ)さします。こういう意味からでも、自分の専門以外の題目に関するいい論文などを読むのは決して無益な事ではない。

それで案内記ばかりにたよつていてはいつまでも自分の目はあかないが、そうかと言ってまるで案内記を無視していると、時々道に迷つたり、事によると滝つぼや火口に落ちる恐れがある。これはわかりきった事であるが、それにかかわらず教科書とノートばかりをたよりにする学生がかなり多数である一方には、また現代キセイ(カ)の科学を無視したために、せっかくながい考えはもちながら結局失敗する発明家や発見者も時々出て来る。

名所旧跡の案内者のいちばん困るのは何か少しよいなものを見ようとするとNo time, Sir! などと言って引つ立てる事である。しかしこれも時間の制限があつてみれば無理もない事である。それでほんとうに自分で見物するには、もう一ぺんひとりで出直さなければならない事になる、ただその時に、例の案内者が「邪魔」してくれさえしなければいい。

しかし案内者や先達(せんだつ)の中には、自己のオーソリティに対する信念から割り出された親切から個々の旅行者の自由な観照を抑制する者もないとは言われない。旅行者が特別な興味をもつ対象の前にしばらく歩(あゆ)みを止めようとするのを、そんなものはつまらないから見ると世話をやく場合もある。つまるとつまらないとが明らかに「相対的」のものである場合にはこれは困る。案内者が善意であるだけにいつそう困るわ

けである。この種の場合内者はその専門の領域が狭ければ狭いほど多いように見えるが、これは無理もない事である。自分の「お山」以外のものは皆つまらなく見えるからである。

一方で案内者のほうから言うと、その率いている被案内者からあまりに信頼されすぎて困る場合もずいぶんありうる。どこまでも忠実に付従して来るはいいとしても、まさか手洗い所までも iv について来られては迷惑を感じるに相違ない。

ニュートンの光学が波動説のフキユウを妨げたとか、ラプラスの權威が熱の機械論の發達に邪魔になったとかいう事はよく耳にする事である。ある意味では確かにそうかもしれない。しかしこの全責任を負わされてはこれらの大家たちはおそらく泉下せんかに瞑めいする事ができまい。少なくとも責任の半分以上は彼らのオーソリテイに盲従した後進の学徒に帰せなければなるまい。近ごろ相対原理の發見に際してまたまたニュートンが引き合いに出され、彼の絶対論がしばしば e の上に載せられている。これは当然の事としても、それがためにニュートンを罪人呼ばわりするのはあまりに不公平である。罪人はもつともつとほかにたくさんある。言わばニュートンは真理の殿堂の第一の扉を開いただけで逝ゆってしまった。

彼の被案内者は第一室の壮麗に酔わされてその奥に第二室のある事を考えるものはまれであった。つい、近ごろにアインシュタインが突然第二の扉を蹴け開いてそこに玲瓏れいろうたるキカ学的宇宙の宮殿を發見した。しかし第一の扉を通過しないで第二の扉に達し得られたかどうかは疑問である。

この次の第三の扉はどこにあるだろう。これはわれわれには全然予想もつかない。しかしその未知の扉にぶつかってこれを開く人があるとするれば、3 その人はやはり案内者などのやっかいにならない風来の田舎者いなかものでなければならぬ。第三の扉の事はいかに權威ある案内記にも誌しるしてないのである。

思うにうっかり案内者などになるのは考えものである。黒谷や金閣寺の案内の小僧でも、始めてあの建築や古器物に接した時にはおそらくさまざまな深い感興に動かされたに相違ない。それが毎日同じ事を繰り返している間にあらゆる興味はジョウハツしてしまつて、v 口上を暗記するところには、品物自身はもう頭の中から消えてなくなる。残るものはただ「言葉」だけになる。目はその言葉におおわれて「物」を見なくなる。そうして丹波たんばの山奥から出て来た觀覽者の目に映るような美しい影像はもう再び認める時はなくなってしまう。これは実にその人にとつては取り返しのつかない損失でなければならない。

4 このような人は単に自分の担任の建築や美術品のみならず、他の同種のものに対しても無感覚になる恐れがある。たとえばよその寺で狩野永徳かのうえいとくの筆を見せられた時に「狩野永徳の筆」という声が直ちにこの人の目をおおい隠して、眼前の絵の代わりに自分の頭の中に沈着して黴かびのはえた自分の寺の絵の像のみが照らし出される。たとえその頭の中の絵がいかに立派でもこれでは困る。手を触れるものがみんな黄金になるのでは飢え死にするほかはない。

職業的案内者がこのような不幸な境界にオチイ(コ)らぬためには絶えざる努力が必要である。自分の日々説明している物を絶えず新しい目で見直

して二日に一度あるいは一月に一度でも何かしら今まで見いださなかった新しいものを見いだす事が必要である。それにはもちろん異常な努力が必要であるが、そういう努力は苦しい。それをしなくても今日には困らない。そこに案内者のはまりやすい「洞窟」がある。

(寺田寅彦「案内者」による)

(注1) 黒谷……京都府京都市左京区の名。金戒光明寺などがある。

(注2) 什物……秘蔵されている宝物。

(注3) エンチクロペディ……百科事典。

(注4) ハンドブーフ……手引き書、ハンドブック。

(注5) No time, Sir……英語で、時間がないことを示し、急ぐように求める言葉。

(注6) オーソリティ……権威、威信。

(注7) ラプラス……フランスの物理学者、数学者、天文学者(一七四九―一八二七)。

(注8) 狩野永徳……安土桃山時代の絵師(一五四九―一五九〇)。

問一 傍線部(ア) (イ) (エ) のカタカナに該当する漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。解答
番号は

1

10

。

(ア) タイガイ

1

- ① 住民にキガイをくわえる
- ② 世間をガイタンする
- ③ 新たなガイネンを提示する
- ④ 動物のシガイを片付ける
- ⑤ カンチョウガイを案内する

(イ) シセツ

2

- ① 文学作品のセツテイを考える
- ② ナイセツエンの面積を計算する
- ③ 釈迦にセツポウである
- ④ セツジツな思いを告げる
- ⑤ 物語のイッセツを書き写す

(ウ) キロ

3

- ① ガツキを演奏する
- ② サツキに満ちた表情をしていた
- ③ キマツ試験の対策をする
- ④ ここで道がブンキしている
- ⑤ 近隣への注意カンキを行った

(エ) ムミカンソウ

4

- ① 洗濯物をカワかしておく
- ② カンダイな処置を希望する
- ③ まだアセるような時間ではない
- ④ 窓を開けてカンキをする
- ⑤ センスイカンに乗り込む

(オ) ユウハツ

5

- ① 問題意識をキヨウユウしている
- ② ユウビンキヨクに就職する
- ③ ユウキをふりしぼって発言する
- ④ 団体への参加をカンユウする
- ⑤ 銀行からのユウシを受けている

(カ) キセイ

6

- ① キシカイセイの策を練る
- ② キチの事柄にあてはめて考える
- ③ 数学的キノウ法を学ぶ
- ④ キノウから今日にかけて雨が降る
- ⑤ 会議でシヨキを担当する

(キ) フキユウ

7

- ① 大臣の責任をツイキユウする
- ② 映画史に残るフキユウの名作
- ③ フミンフキユウで面倒を見る
- ④ ガクフの通りに演奏する
- ⑤ 会議がフンキユウする

(ク) キカ

8

- ① 半島をナンカしてゆく
- ② ムリナンダイを押しつけられる
- ③ ナンカイも同じことを発言する
- ④ チョウナンを後継者にする
- ⑤ ナンジャクな地盤で工事をする

(ケ) ジョウハツ

9

- ① カジョウな期待を寄せる
- ② ジョウキ機関車に乗る
- ③ ジョウホウを整理する
- ④ 栄養ジョウタイが悪化する
- ⑤ 売り上げをカンジョウする

(コ) オチイらぬ

10

- ① 部隊が町をカンラクさせた
- ② 毛細ケツカンを観察する
- ③ ミカンセイのまま残された作品
- ④ 映画カントクになりたい
- ⑤ しばらくは事態をセイカンしよう

問二 空欄 i ～ v に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 11。

①	i	じつくり	ii	うつとり	iii	さつぱり	iv	のそのそ	v	さつぱり
②	i	うつかり	ii	ゆつくり	iii	ちようど	iv	ひそひそ	v	すつかり
③	i	うつとり	ii	じつくり	iii	さつぱり	iv	ひそひそ	v	さつぱり
④	i	ゆつくり	ii	どつさり	iii	ちようど	iv	のそのそ	v	あつさり
⑤	i	ゆつくり	ii	うつかり	iii	ちようど	iv	のそのそ	v	すつかり
⑥	i	じつくり	ii	うつかり	iii	さつぱり	iv	ひそひそ	v	さつぱり

問三 傍線部 (a) ～ (f) のうち暗喩の表現が用いられていないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 12。

- ① (a) 器械かなんぞのように思われる
- ② (b) 広大な知識の林に分け入り
- ③ (c) 同じようなものに火をつける
- ④ (d) 滝つぼや火口に落ちる
- ⑤ (e) 俎の上に載せられている
- ⑥ (f) はまりやすい「洞窟」がある

問四 傍線部(1)「なんだか少し惜しい事をしたという気の起くるのは免れ難かった」とあるが、それはなぜだと考えられるか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 13。

- ① 案内者は、特に重要な陳列物に絞って解説していたのに、自分が興味を持った物にばかり鑑賞の時間を割いてしまっていたから。
- ② 案内者はすべての陳列物に対して丁寧な解説していたのに、同行者たちはその説明をよく聞いていなかったことがわかったから。
- ③ 案内者はすべての陳列物に対して丁寧に解説していたのに、そこで見た絵画や工芸品の様子が今は思い出せなくなっているから。
- ④ 同行者の話を聞いて、自分は案内者の説明する速度に合わせていなかったために、価値のある物を見逃してしまっていたと思ったから。
- ⑤ 同行者の話を聞いて、自分が案内者の説明する速度に合わせていれば、価値ある物は見逃さなと思い込んでいたことに気づいたから。

問五 傍線部(2)「専門の学術の参考書でもよく似た事がある」とはどういうことか。その意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① 百科事典や手引書のような、知識が系統的に整理されている書物を調べれば、自分が直面している問題を客観的かつ正確に認識できるので、専門的な学術書は必ずしも必要ではないということ。
- ② 専門的な学術書でも、正確な知識が系統的に整理されているものよりも、それぞれの研究者の実感が重視され、多少の誤りを含むものこそ、読者の心に響く価値を持っているということ。
- ③ 専門的な学術書でも、知識が系統的に整理されているものよりも、それぞれの研究者が自分自身の経験を記述したものにこそ、読者の関心をひきつけ、研究を促す力があるということ。
- ④ 百科事典や手引書のような、知識が系統的に整理されている書物と、まとまりのない観察記録のような書物とは、読者の意識によって価値が決まるという点で、同じ性格を持っているということ。
- ⑤ 専門的な学術書でも、多大な労力をかけて最初から最後まで読み通したり、内容を暗記したりしても有益ではない場合があり、本を読むことよりも明確な目的意識を持つことが大切だということ。

問六 傍線部(3)「その人はやはり案内者などのやつかいにならない風来の田舎者いなかもでなければならない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 15。

- ① 未知の領域を切り開き、科学的な真理に接近することができるのは、従来の研究の成果によって自由な思考や発想を抑圧されていない者であるはずだから。
- ② 未知の領域を切り開き、新たな知識を人々に与えることができるのは、他人に頼らず、自分の能力のみによって知識を獲得する強さを持つ者であるはずだから。
- ③ 未知の領域を切り開き、科学的な真理に接近することができるのは、従来の研究の成果を尊重し、それを基盤に着実な思考を積み重ねる者であるはずだから。
- ④ 未知の領域を切り開き、新たな知識を人々に与えることができるのは、従来の研究の成果を正確に把握し、有効な批判を加えられる者であるはずだから。
- ⑤ 未知の領域を切り開き、科学的な真理に接近することができるのは、従来の研究の成果に魅力を感じ、それにあこがれて研究を続けた者であるはずだから。

問七 傍線部(4)「このような人」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 16。

- ① ある事柄に詳しい立場として、人々に繰り返し知識を伝えているうちに、その事柄以外のこと的理解できなくなり、社会の人々との対話が困難になる。さらに、その事柄の属する分野全体に対しても、適切な認識ができなくなる恐れがある。
- ② ある事柄に詳しい立場として、調査や研究を続けているうちに、専門的な知識にばかり気をとられて、その事柄の社会における意義を見失う。さらに、その事柄の属する分野全体に対しても、先入観を持った見方しかできなくなる恐れがある。
- ③ ある事柄に詳しい立場として、調査や研究を続けているうちに、そこで用いられる言葉にばかり気をとられて、調査や研究の目的が理解できなくなる。さらに、その事柄の属する分野全体に対しても、適切な認識ができなくなる恐れがある。
- ④ ある事柄に詳しい立場として、調査や研究を続けているうちに、そこで用いる言葉にばかり気をとられて、その事柄自体への関心を失う。さらに、その事柄の属する分野全体に対しても、否定的な見方しかできなくなる恐れがある。
- ⑤ ある事柄に詳しい立場として、人々に繰り返し知識を伝えているうちに、そこで用いる言葉にばかり気をとられて、その事柄自体への関心を失う。さらに、その事柄の属する分野全体に対しても、先入観を持った見方しかできなくなる恐れがある。

問八 この文章の特色を説明した文として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 17。

- ① 比喩、倒置、対句など、読者に驚きを与えるような修辭的な技巧を多用して、主張に説得力を与える構成になっている。
- ② 同じような主張をくり返し述べながら、比喩や具体例を豊富に示すことで、その主張を補強してゆく構成になっている。
- ③ 「真理の殿堂」や「金閣寺」のように、壮麗な建造物を表す言葉を多用して、文章に統一性を感じさせる構成になっている。
- ④ 正反対の主張を交互に述べることで、そのいずれが正しいのか読者に考えさせ、結論に説得力を与える構成になっている。
- ⑤ あえて読者に違和感を与えるような表現を盛り込むことで、結論につながる論理展開への注目を促す構成になっている。

問九 本文の内容に合致する文を、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は

18

 ・

19

 。

- ① ある分野の事柄を人々に紹介・解説する職業に就いている者が、学校教育の制度において權威を持つようになってしまったために、科学的な真理を求める自由な議論が行われなくなってしまった。
- ② ある分野の事柄を人々に紹介・解説する者は、自分の言葉遣いや表現の技術を磨き、いつでも同じ内容を、誤解なく読者や聴衆に伝えられるようにしておくことが、社会から与えられた任務である。
- ③ ある分野の事柄を人々に紹介・解説する職業に就いている者は、自分が見慣れている対象を、常に新たな視点から見直す努力をしなければならぬが、それは非常に難しく、苦しいことである。
- ④ ある分野の事柄を人々に紹介・解説する者が、自分の価値判断まで読者や聴衆に押しつけることも、逆に読者や聴衆がその者に過度な信頼を寄せることも、ともに望ましいことではない。
- ⑤ ある分野の事柄を人々に紹介・解説する職業に就いている者は、人々が正確な知識を獲得し、適切な思考法を身に着けることこそが、社会全体の発展につながることを認識するべきである。
- ⑥ ある分野の事柄を人々に紹介・解説する者は、学校教育や参考書では触れることのできない知識を読者や聴衆に伝えるために、いつもさまざまな場所に足を運び、多くの特殊な経験を積んでいる。

〔選択問題〕〈現代文〉か〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみ答えなさい。

〔二〕〈現代文〉次の文章は、歌人である藤原龍一郎が俳句雑誌に寄稿したものである。これを読み、後の問いに答えなさい。

短歌と俳句の差異を考えると、いちばん説明しやすいのは、喜怒哀楽を文学的に詠み込めるのが短歌、それを入れずに言葉の背後に象徴的に沈めるのが俳句という言い方ではないかと思っている。もちろん異論はあるだろうし、別のふさわしい表現もあるだろうが、私の中の理解として、このように考え、他者に説明する必要があるときには、これをベースとして語るように心がけている。

私自身がどのように短歌に魅かれたのかを考えてみても、やはり、定型詩でありながら、喜怒哀楽の表現がくつきりとできるという短歌の特性に反応していたのだと思う。

五月祭の汗の青年^(音) 病むわれは火のごとき孤獨^(他)もちてへだたる

② 鰯^(イサナ)雲北^(イノ)にかがやきこころいたし結核家系われにて終はる

亡き母の真赤な櫛^(くし)で梳きやれば山鳩^(やまばと)の羽毛^(うも)抜けやまぬなり

ヴェニスに死すと十指^(ひ)つめたく展^(ひら)きをり水煙りする雨の夜明けは

血と雨にワイシャツ濡^(ぬ)れている無援ひとりへの愛うつくしくする

その日からきみあたらぬ仏文^(注1)の 二月の花といえヒヤシンス

春のさかりもすばやしそして霧雨^(注2)のアデンに発^(は)ちてすではるけし

塚本邦雄^{つかもとくにお}

滝沢 亘^{わたる}

寺山修司

春日井建

岸上大作

福島泰樹

三枝昂之^{さいぐさたかゆき}

これらは初学の頃の私が、「短歌っていいなあ、凄^すいなあ」と思った歌の数々だ。読んでいただければ、これらの歌の根幹は喜怒哀楽のグラデーションであるということがわかってもらえるだろう。

塚本邦雄の歌にはメーデーの行進をする健康な若者への灼^やけつく嫉妬の感情がある。次の滝沢亘は結核患者であり、咯血^{かっけつ}による窒息で亡くなった。掲出歌は諦念に見えるが、その底には何故に自分が死ななければならないのかという強い憤怒^{かんぬ}と怨嗟^{えんさ}がある。これは第一歌集『白鳥の歌』の巻頭歌だ。他の作には、ストレプトマイシンという特效薬があるにもかかわらず、病状が進行しすぎていて、その薬を使っても治癒しないという怨念、死の側に取り残される者の怒りがみちあふれている。

寺山修司の一首は、母と故郷の風土、つまり血縁と地縁にがんじがらめにされている孤独な精神の孤絶と恐怖が詠^{うた}われている。春日井建の歌

にはトーマス・マンの『ヴェニスに死す』という背景がある。それは不毛の同性愛へのむなしい憧憬があるように思える。^(注3)

次の岸上大作は「恋と革命に敗れた」との遺書を残して、一九六〇年十二月に二十一歳で自死した歌人。^(注4) 学生運動の高揚の中での片想いの恋情を清潔な抒情性で詠いあげている。青春の歌だ。この高揚がまもなく挫折から絶望へ至り、自死なる結末を迎えると思えば、これほど悲痛な思いもない。

福島泰樹は今もお、短歌絶叫という固有の方法で、肉声による歌の伝達を続けている。掲出歌はその福島泰樹の第一歌集の一首。一九六六年のいわゆる第二次早稲田闘争を主題とした歌集で、女性闘士であった同志の姿を「仏文の二月の花」「ヒヤシンス」と詠う凛々しいみずみずしさが魅力である。^(注5)

三枝昂之の歌は本格的な学生運動終焉後の挫折感を、日本を脱出したかつての同志への遠望をエールとして詠っている。

このような短歌の特性、魅力の底には喜怒哀楽のグラデーションがまぎれもなく存在している。つきつめればそれが短歌の根源であり、比類のない魅力なのだと思う。

こんどは具体的に短歌と俳句の比較を試みる。寺山修司は、少年時代から俳句をつくり、やがて短歌研究新人賞を受賞して、短歌をメインの表現行為としたのだが、作品の中には同一素材の俳句と短歌が存在している。たとえばこのように。

(ア)

ラグビーの頬傷はてる海見ては

寺山修司

(イ)

ラグビーの頬傷は野で癒ゆるべし自由をすでに怖じぬわれらに

寺山修司

テーブルの上の荒野に百語の雨季

テーブルの上の荒野をさむざむと見下すのみの劇の再会

ラグビーの頬傷の句と歌。どちらもテーマは青春。俳句は余分な言葉を排して、頬傷の火照りと海の配合のみで、一句の中の若い「私」をシンボライズさせている。それでじゅうぶんに作者の思い、匂うような青春性は伝わってくる。

一方の短歌は短歌の中の「私」の性格設定まで踏み込んでいる。一首目の「癒ゆるべし」にすでに俳句にはなじまない感情が入っている。そして下の句の「自由をすでに怖じぬわれらに」で、「私」の性格に深みを付与している。喜怒哀楽の「喜」である。

次の「テーブルの上の荒野」の句と歌。キーワードがすでに過剰なまでに詩的熱量が強い。そこで俳句は「百語の雨季」という暗喩をそのままぶつけている。写生の技法では歯がたたぬ場合、一句全体を暗喩にしようという技法である。短歌の方ではなぜテーブルの上に荒野があるのかということを、「劇の再会」と説明している。「さむざむと見下すのみ」というのは演出の上で「哀感」をあらわす感情表現だろう。

もう一つ私自身の作品で説明してみる。

キオスクに夕刊買うや春の雨

藤原龍一郎

タブロイド版夕刊紙買うためにコインを探る指のさびしさ

藤原龍一郎

(注6) キオスクで日刊ゲンダイや夕刊フジといった夕刊紙を買うことは私の日常にはよくある。俳句の方は行為だけを写生して、おりしも降り出した春の雨を季語として配合している。雨の日の新聞紙の湿りの感覚まで伝わってくれば成功である。

短歌の方では私の心理を中心に構成してある。コインや指を提示した上で「さびしさ」で締める。まさに「哀感」の言語化。ここに俳句と短歌、二つの詩形の差異が明確に出ている。「さびしさ」は俳句ではむき出しでは使えない。短歌ではためらいなく使えるし、実際、使っている。

(ウ)

ちるさくら海あをければ海へちる

高屋窓 秋

(エ)

春ひとり槍投げて槍に歩み寄る

能村登四郎

くちなしの花カーソルの点滅す

榮 猿丸

(オ)

梅雨寒や理工学部部長廊下

高柳克弘

私の好きな俳句だが、どの句も「さびしい」と言わずに「さびしさ」を表現し得ている。これが俳句の特性であり、際立った詩的生理なのだと思う。

わかってもらえるだろうか。短歌と俳句のどちらが優れているかというようなことではなく、詩の形式としての機能と生理が異なっているという(3)こと。

私は自分の饒舌を受け止めさせる詩形として短歌を選んでいる。私の喜怒哀楽を淡彩から濃密まで短歌は表現として成立させてくれる。感情語を抜きにして、しかし、作者の心情を暗喩として伝え得る俳句は、言わば「沈黙は金」の詩形である。短歌と俳句、この二つの詩が歴史を超えて存在し、しかも、新聞に短歌俳句の投稿欄があるように、国民の表現として定着している現実を誇ってよいことではないか。詩形の特性を知って、自分の表現意志によりふさわしいものを、方法意識をもつて選ぶ、それが表現者としての矜持であろうと思う。そして、願わくば、選ばなかった方の詩形にも目を配り、よき読者であってほしい。

(『抒情が目にしみる』による)

- (注1) 仏文……フランス文学部または文学科の略称。
- (注2) アデン……イエメン共和国南西部の港湾都市。
- (注3) トーマス・マン……ドイツ出身の小説家(一八七五―一九五五)。代表作『ヴェニスに死す』(一九一二年)は、榮譽に包まれた男性の大作家がヴェネツィア(ヴェニス)で出会った美少年への恋を描いた作品で、ルキノ・ヴィスコンティによって映画化(一九七一年)もされた。
- (注4) 学生運動……大学生を主体とした社会運動。日本では一九五〇年代後半、日米安保条約反対闘争などをめぐって過激化した。六〇年代中頃になると、ベトナム戦争や学内運営も論点となったが、やがて各大学における大学改革への取り組みが進み、七〇年代以降は急速に鎮静化した。
- (注5) 第二次早稲田闘争……早稲田大学で全学的に展開された大学闘争のうち、一九六〇年代後半に行われたもの。
- (注6) キオスク……駅構内にある小さな売店。

問一 傍線部（1）「象徴的に沈める」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 20。

- ① 現実的な表現よりも空想的な表現を選択する。
- ② 客観的な表現よりも主観的な表現を選択する。
- ③ 直接的な表現よりも暗示的な表現を選択する。
- ④ 散文的な表現よりも韻文的な表現を選択する。
- ⑤ 文学的な表現よりも絵画的な表現を選択する。

問二 傍線部（2）「鰯雲北にかがやきこころいたし結核家系われにて終はる」という短歌について、筆者はどのように解釈していると考えられるか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 21。

- ① 末期に美しく鳴くとされる白鳥が北方へと帰ってゆく光景に思いを巡らせながらも、ひたすら衰えゆく自身の肉体の醜さは肯定することができず、ただただ悲観的になっている。
- ② 末期の結核を治療できない医学の限界を受け入れているように見えるが、ひとつの家系を終わらせてしまおうと思うと先祖に申し訳なく、医療界の現状に対して失望と怒りを禁じ得ない。
- ③ 肉親から引き継いだ結核という病に自分が終止符を打てることに安心して見えるように見えるが、死を前にした秋の空の無垢な輝きは痛々しく、悲しみと怒りが湧き上がってくる。
- ④ 美しい鰯雲がいつか消え去るように、自身も死によって消滅することを受け入れているように見えるが、心の奥底では病による死を避けられない人間の運命を嘆き悲しんでいる。
- ⑤ やがて自身に訪れる死にはもはや抵抗していないように見えるが、輝く秋の雲の美しさを前にして、あまりにも早く自身に到来する死に対して行き場のない怒りや嘆きを感じている。

問三 次の文章は、傍線部（ア）の俳句「ラグビーの頬傷ほてる海見ては」および（イ）の短歌「ラグビーの頬傷は野で癒ゆるべし自由をすでに怖じぬわれらに」に関して、国語の授業で話し合ったときの会話である。A～Eさんの発言のうち、誤っているものはどれか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 22。

- ① Aさん「アの句だけど、〈海見ては〉を先に読むと散文と同じ語順になるから、技法としては倒置法だね。最後に〈海見ては〉が強調されることで、傷を抱える人間の内面が感じられると思う。」
- ② Bさん「そうだね。アの句は、ラグビーをしているときにできた頬の傷が、海を見るたびに熱く感じられるという句だと思うけど、〈海〉という言葉が青春のイメージを強めていると思う。」
- ③ Cさん「イの歌は上句で、頬の傷は自然に治るはずだ、というところまで言っているけど、下句まで読むと、自由であることに恐怖を感じる、若者の不安をありのままに詠んでいるようだね。」
- ④ Dさん「〈ラグビーの頬傷〉という言葉が共通しているけど、イの歌には〈われら〉という言葉が入っているせいか、十代の傷つきやすさが集団的・世代的に捉えられていると思う。」
- ⑤ Eさん「自由には責任が伴うとも言うしね。少年が大人になっていくときの複雑な感情がくつきりと表現されているのは、やはりイの短歌のほうなのかな。」

問四

次の文章は、傍線部（ウ）「ちるさくら海あをければ海へちる」（エ）「春ひとり槍投げて槍に歩み寄る」（オ）「梅雨寒や理工学部の長廊下」という俳句に関して、国語の授業で話し合ったときの会話である。A～Eさんの発言のうち、**誤っているものはどれか**。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 23。

- ① Aさん「ウの句は、桜の花が散っていること、海が青いことしか言っていないのに、淋しさが感じられるのは何故なんだろう。幻想的なイメージになっているのは、ひらがなが多いせいもあるかな。」
- ② Bさん「エの句だけど、槍投げは個人競技だから、黙々と練習しているのが伝わるね。春は明るい季節だけど、卒業やクラス替えもあって淋しさを感じることもあるから、この場面に似合う気がする。」
- ③ Cさん「ウの句では〈海〉や〈ちる〉が、エの句では〈槍〉という言葉が反復されているけれど、リズム感が出るのに加えて、描かれる場面を単純化して印象づけるという効果もありそうだね。」
- ④ Dさん「オの句は、切字の〈や〉が面白い。〈長廊下〉が学問の奥深さを象徴しているし、学問を究めようとする情熱があれば、梅雨の時期も寒さを吹き飛ばせそうで滑稽味があるね。」
- ⑤ Eさん「ウやエの句と違って、オの句には動詞がなくてほとんど名詞だけで構成されているでしょう。季節と場所が組み合わせられただけなのに、人間の感情が浮かび上がってくるから不思議だなあ。」

問五 傍線部(3)「自分の饒舌を受け止めさせる詩形として短歌を選んでいる」のはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 24。

- ① これまでに短歌と俳句の両方に触れてきた経験をもつ筆者の原点は、若い頃に出会った短歌における感情表現の豊かさと強烈さであり、それらに憧れを抱く気持ちは、今もまったく変わっていないから。
- ② 筆者はこれまでに短歌と俳句の両方に触れてきた経験から、感情を剥き出しで表現できない俳句という形式にもどかしさを感じるようになり、いつしか短歌のほうが優れていると心の奥では思うようになったから。
- ③ 筆者はこれまでに短歌と俳句の両方に触れてきた経験から、感情の機微を直接的に表現したいという自身の意志にとって、俳句よりも短歌のほうが方法として適した詩型であると考えているから。
- ④ これまでに短歌と俳句の両方に触れてきた筆者にとって、俳句は出来事の単純な写生や季語の選択にとどまってしまうため、心理を中心に構成できる短歌のほうが複雑で奥深いと感じられるから。
- ⑤ これまでに短歌と俳句の両方に触れてきた筆者は、両者の詩型のあいだに優劣がないことを確信した結果、感情をより複雑に表現できる短歌のほうが自身の生理に合っていると感じているから。

問六 本文には「短歌と俳句の差異、そして魅力」という表題がつけられている。作者が考える「差異」や「魅力」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 25。

- ① 短歌が根源的に有している抒情性は本質的に俳句になじまないが、俳句には季節の変化に心情を語らせるといふ魅力がある。
- ② 短歌と俳句がともに歴史を超えて国民的な表現として定着した短詩であることは、国内外に向かって誇るべき共通の魅力である。
- ③ 短歌と俳句の双方を見比べると、感情の表現方法の本質的な差異に気づき、それぞれの魅力がいつそう理解できるようになる。
- ④ 短歌は非日常的な瞬間を、俳句は日常的な瞬間を切り取ることで、読者を空想的な世界へ誘うことが両者の共通の魅力である。
- ⑤ 短歌と俳句は素材や表現の上で差異があるものの、ともに手軽な文芸創作を日常にもたらししてくれる魅力的な国民文学である。

〔二〕〈古文〉 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

昔、殿上のをのこども、花見むとて東山におはしたりけるに、俄（注1）に心なき雨のふりて、人々、げに騒ぎたまへりけるが、実方（注2）の中将、いと騒がず、木のもとに寄りて、かく、

さくらがり雨はふり来ぬ（ア）―（イ） おなじくは濡ぬるとも花のかげにくらさむ

とよみて、かくれたまはざりければ、花より漏りくだる雨にさながら濡れて、装束（ウ）しほりかねはべり。このこと、興あることに、人々、思ひあはれけり。

またの日、齊信（注2）の大納言、主上（注3）に「（b）かかるおもしろき事のはべりし。」と奏せられけるに、行成（注4）、その時、蔵人頭くらうどのとうにておはしけるが、（エ）「歌はおもしろし。実方はをこなり。」とのたまひてけり。この言葉を実方、漏れ聞きたまひて、ふかく恨みをふくみたまふとぞ聞こえはべる。

（『撰集抄』による）

（注1） 実方の中将……藤原実方。平安時代中期の歌人。中古三十六歌仙の一人。『古事談』や『十訓抄』に、殿上で藤原行成と争い、陸奥守むつのかみに左遷されたという話が見える。

（注2） 齊信の大納言……藤原齊信。平安時代中期の貴族。一条天皇の時代に特に秀才として知られた四納言の一人。

（注3） 主上……その時の天皇を言う。ここは一条天皇を指すか。

（注4） 行成……藤原行成。平安時代中期の貴族。三蹟さんせきの一人に数えられ書家としても著名。行成も四納言の一人に数えられた。

問一 傍線部（a）「心なき雨のふりて」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 26。

- ① 人間の気持ちとは関係なく、自然現象としての雨が降って来たということ。
- ② 意地悪くも雨は殿上人の男達目がけて集中的に降り注いだということ。
- ③ 花見を満喫し高ぶっているであろう人々の身体を冷ましてやろうと、雨が降ったということ。
- ④ 残念なことに花見を楽しんでいた殿上人たちの気持ちを汲んでくれず、雨が降ったということ。
- ⑤ 高位の殿上人の男達の花見を阻んでやろうと、天上の神々が雨を降らせたということ。

問二 傍線部（b）「かかるおもしろき事のはべりし」とあるが、ここで斉信の大納言が帝に奏上したのはどのようなことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 27。

- ① 行成が雨にずぶ濡れになるというような滑稽なことがあったということ。
- ② 人々の装束に降りがかった雨が興味深い文様をなすという奇跡があったということ。
- ③ 行成と犬猿の仲であった実方が雨水をかけられるという事件があったということ。
- ④ 立派な殿上人達がにわか雨に打たれて逃げ惑ったという騒動があったということ。
- ⑤ 雨に打たれながら実方が桜の下で見事な歌を詠んだという心惹かれることがあったということ。

問三 傍線部（ア）「来」の読みとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 28。

- ① くれ
- ② こ
- ③ く
- ④ きたり
- ⑤ き

問四 傍線部（イ）「おなじくは濡るとも花のかげにくらさむ」の意味として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 29。

- ① 桜の花も濡れてしまうのだから私も一緒に濡れてあげよう。
- ② どうせ濡れてしまうのであればせめて桜の木陰に休らうことにしよう。
- ③ 人は仮初めの世に生きているのだからつかの間の花見を楽しんで生きて行こう。
- ④ 濡れてしまうのであればどうして桜の下で雨宿りをしないのであろうか。
- ⑤ 同じく濡れるのであれば満開の桜の下に来た瞬間にずぶ濡れになってしまいたい。

問五 傍線部(ウ)「しほりかね」の主語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 30。

- ① 殿上のをのこども
- ② 人々
- ③ 実方の中将
- ④ 斉信の大納言
- ⑤ 主上
- ⑥ 行成

問六 傍線部(エ)「歌はおもしろし。実方はをこなり。」とのたまひてけり」とあるが、どういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 31。

- ① 実方の詠んだ歌には敬服しているのであるが、歌に自信のない行成はあまりに賞賛するのも悔しいため、実方は常日頃の言動に問題がありますと、天皇に告げ口したということ。
- ② 行成は実方の歌に高度なレトリックが駆使されており申し分ないと思ったが、一方では逃げ遅れてずぶ濡れになってしまった実方の愚鈍さにあきれ果ててしまったということ。
- ③ 実方は天皇が激賞されるほどの立派な歌を詠んだのだが、その反面では雨にぐっしりと濡れてしまった仲間の殿上人のことを顧みず、人としての情けは持ち合わせていないと、行成は落胆したということ。
- ④ 行成は「さくらがり」の歌を素晴らしい歌だと評価しているものの、歌の内容そのままに桜の木の下で雨にぐっしり濡れてしまったのは馬鹿げていると、実方の行動には理解を示さなかったということ。
- ⑤ 実方の詠歌は興味深いと、書家として既に名声を得ている行成も感心しているのであるが、やはり武官の中将だから武骨さをもあわせて備えていなくては栄達が望めないのではないかと、実方の将来を懸念しているということ。

問七 『撰集抄』と同じジャンルの作品を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 32。

- ① 『古今著聞集』
- ② 『新古今和歌集』
- ③ 『とほずがたり』
- ④ 『平治物語』
- ⑤ 『方丈記』